

読書

SUN

あつがきの
あつがきの

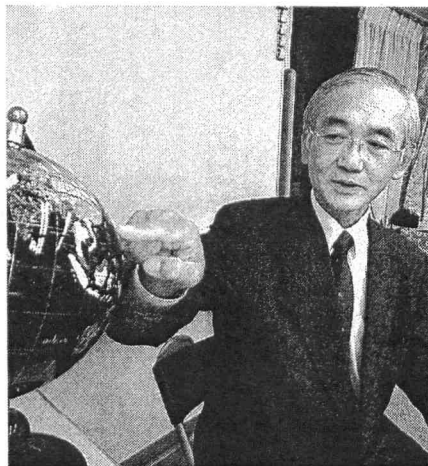
重さ0・5gに満たない体を風に揺られながら、春から秋にかけて、10000羽も20000羽も旅をするアサギマダラ。世界でも唯一、海を渡ること知られるこの蝶に魅せられ、アマチュアとして調査を始めて10年。これまで13万もの個体に接してきた。調査報告を基に、その不思議な生態の謎を教えてくれる本だ。

2002年、台風が過ぎ去った直後の自然公園で、おびただしい数のアサギマダラの群れに出会ったことが調査にのめり込む直接のきっかけ。「ふだん目に見える群れで活動しているわけではない彼らが、最悪の気象条件下でどうやって集まれるのか。何を考え、どういうセンサーで動いているのかが知りたくなった」
捕獲した個体の翅に日付

「謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか？」 栗田 昌裕氏

や場所などの印を付けて放すマーキングの手法で生態を追う調査が、全国の研究者や愛好者らの協力で実施されている。その調査に03年から参加。「どうせやるなら自分にしかできない調査がしたい」と、ひと夏で1万頭以上もの個体にマーキング。離れた土地で再捕獲される数を基に数量的なデータを作り、さらに「本州で捕獲した蝶を、奄美大島で自分で再捕獲する」ことを目標に掲げた。

本書では実際に様々な形で再捕獲された話に加え、調査過程で明らかになったさらなる不思議な現象への



(くりた・まさひろ) 1951年愛知県生まれ。東大大学院修士課程修了(数学専攻)、同医学部卒。群馬パーサ大教授、東大病院内科医師などを兼任する。

不思議な生態の謎に迫る

驚嘆がつづられる。追い風もないのに1日2000羽も海を渡り、なぜか好みの花が多い島を臨機応変に選び出す。毎年「渡り」を経験できる渡り鳥と異なり、アサギマダラの寿命は1年未満で、すべては初めての経験の中で判断されている。「グローバルに眺めると、彼らは集団で何らかの羅針盤と天気図を持ち、気象を読んでいるとしか思えない」。医学や数学を通し、自然を数理的に見てきたと自認するが、「今はアサギマダラが『確率』を超えた存在と直観している」。(P. HP研究所・1500円)